

認知症をかかえる本人，支える家族， ケア提供者すべての人に

[評者] 桑田美代子 青梅慶友病院看護介護開発室長・老人看護専門看護師

認知症と診断されたあなたへ

小澤 勲，黒川由紀子 編著

A5 判，136 ページ

定価 1680 円 (本体 1600 円 + 税 5 %)

医学書院 TEL. 03-3817-5657



■いまの筆者に少なからぬ影響を与えた 3 人

2 年ほど前，本書の編著者である小澤勲氏の『痴呆を生きるということ』(岩波新書)が出版された。以来筆者はすっかり小澤勲ファンになっていた。それまで模索しながらも認知症患者と関わり，経験を積み重ねるほど認知症ケアの奥深さを日々実感していたこともあり，光明を与えられたからである。座学ではない，実践知に基づいた生きた言葉がそこには書かれていた。本書も，表紙を開けると真っ先に「認知症をかかえるあなたへのメッセージ」が目に飛び込んできた。今のご自身の状況と照らし合わせながら，粛々としたなかにも小澤氏であるからこそ語られる世界がそこにあった。その世界にまたしても引き込まれてしまった。

もう 1 人の編著者，黒川由紀子氏と筆者は，所属する施設は異なるが，同法人に務める同僚でもある。この本は黒川氏の教え子である学生から「なぜ，認知症の方自身に向けた本がないのか」と問われたことが端緒となり出版に至ったという。筆者なら聞き流していたことだろう。いつも前向きな彼女らしいところである。高齢者と関わっている姿に学ぶ点が多々あり，スタッフの話にも真剣に耳を傾けてくれる。だからこそ，学生の素朴な疑問をも漏らすことなくキャッチし，この企画の実現に漕ぎ着けたのだと思っている。

さらに，「7. 最後まで自分らしく生きるために」を執筆しているのは，精神科医の斎藤正彦氏である。筆者が老人看護のスペシャリストを目指すきっかけを与えてくれた人でもある。斎藤氏も昨年『親の「ボケ」に気づいたら』(文春新書)を出版

した。認知症だけでなく，誰でも最後まで自分らしくあり続けたいと願うであろう。さらにそのための医療機関の探し方や法制度についても具体的に述べられていて，本書とともにお勧めしたい。

■認知症ケアの大きな飛躍の予感がここに

これまで認知症については，介護する側の負担感ばかりが叫ばれてきた。確かに，長期にわたる介護は精神的・身体的，そして，経済的にも多大な負担を強いる。しかし，医学が進歩し，認知症を告知する時代となった今，その人自身が主役であることを再認識する必要がある。また，認知症への理解を深めるためのキャンペーンがいくら推進されても，ほんとうに必要な情報は，どこでどのようにすれば得られるのだろうか。その答えの一つが本書である。一般の方・医療従事者にも薦めたい。なぜなら，認知症を正しく理解するうえで欠かせない大切な基本が，平易な言葉で書かれ，なおかつ，疑問に思っても尋ねることに躊躇する事柄に答えているからだ。認知症を診断された人だけが手にするのではなく，その人々の不安を知り，身近な存在としてケアする看護職にとっても必読書である。

私たちは，認知症の方たちから教えられることがたくさんある。そのことに目を向けてこなかったただけである。そのような大切なことを呼び覚ましてくれた一冊であり，認知症ケアの大きな飛躍のきっかけとなる予感を与えてくれた。本書は，読者によって今後ますます“成長”していくだろう。またそう信じ期待したい。